2013 年 7 月 4 日・週刊きたかみ「文芸」欄では

大塚史朗詩選集

コールサック詩文庫 11　農の暮らしからの詩

　農家の所得倍層計画を打ち出した安倍首相。観光業や福祉産業と協力し、6 次産業化を促進するとも語る。一方世界 70 億人の人口が、2050 年 90 億人を超し、各種の昆虫などの食糧化を国連の機関がまとめた。そんな現状が世界にある。

　詩集を発行した大塚史朗氏は 1935 年群馬生まれ。78 歳。農民として生き、生命を感じさせる農と野、郷土を根底に農民の暮らしを詠ってきた。従来発表した 16 冊の詩集 500 篇を超える中から、一八五篇を選んだ。人間の生きた声で、骨太の骨格が、人懐っこい親しみの中で、野の香りがあふれ出すようだ。

　08 年、農民文学賞も受賞した経歴があり、農の日常を通して、親しみやすい作品だが、社会に鋭い意識を突きつける。

　第十詩集は「日本国憲法の本」（05 年刊）。小学館版の日本国憲法の内容から、多岐にわたり、問題を提起する。現在、96 条、9 条などの改憲問題が世情を駆け巡っているが、国民にとって切実な問いをいかに考えるかのヒントにもなるかもしれない。

　農民として自然を感じ、周囲の生あるすべてを畏敬し、ともにある大切さを詩として表現しているようだ。

と紹介されています。